

『地球環境問題の根本的な原因は何か』

目次

- 1.環境問題とは何が問題なのか
- 2.環境問題の根本的な原因と解決に必要なものは何か
- 3.今後の研究の方向

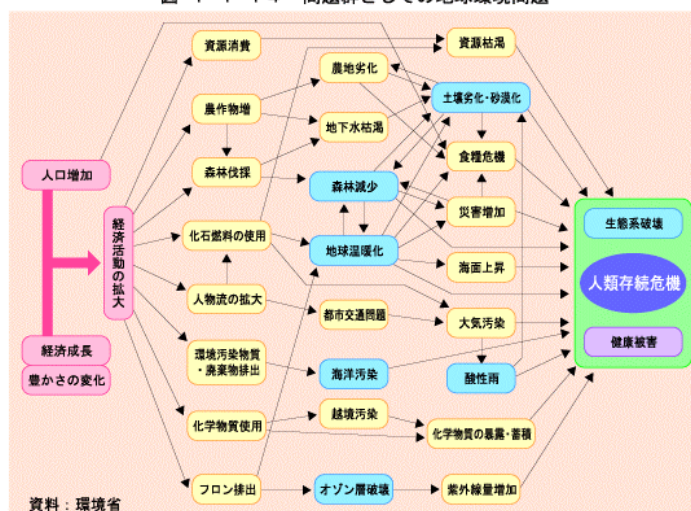
1.環境問題とは何が問題なのか

現在、至るところで地球温暖化・オゾン層の破壊・生態系破壊といった環境問題が騒がれています。環境問題とは何か？まず、そこから検討していききたいと思います。

環境問題は産業革命以降、人間の経済活動が活発になり、環境への影響を熟慮せず、人間の活動が広がってしまったことが問題です。18世紀終わりごろに起こった産業革命は人類に便利で豊かな暮らしを実現する発端となりました。蒸気機関車による物資移動の円滑化、石炭使用による工業生産性の増大、モノがつかないほど生産され、多くの人に行き渡るようになりました。しかし、モノを多く作るということは、他方で環境への影響を与えてしまうことになりました。国際化が進み、人間は（特に先進国の人々は）豊かさを求めて生産活動を更に広げていきました。新たなエネルギー源も開発され、使用されていきました。中でも石油の使用は私たちの生活を便利で豊かにする反面、膨大な環境負荷を与えました。発電所や自動車の使用に伴う石油の消費は二酸化炭素を発生させ、地球温暖化を引き起こしています。地球温暖化は現在最も注目され、早急な対策が必要とされている環境問題の一つです。なぜなら地球温暖化により起こる被害がとても大きく複雑であり、早急な対策を取らないと問題の解決が遅れになってしまう可能性があるからです。

ここで、地球環境問題を例にとって考えてみたいと思います。上の図は平成13年度の環境白書から引用したものです。水色の枠は地球環境問題として定められているものです。これらは非常に複雑に絡み合っています。例を挙げると、森林の伐採が土壌劣化・砂漠化を起こし、二酸化炭素の供給源である森林を破壊してしまうことにより更に地球温暖化を促すという悪循環が発生する、等です。地球環境問題により起こる問題は、気候・温度の変化による食糧不足、水質汚染などによる飲料水の不足、自然災害の増加が挙げられます。それらは生態系の破壊の原因となり、人類の健康への悪影響、更には人類の生存にも関わってきます。

図 1-1-14 問題群としての地球環境問題



資料：環境省

2.環境問題の根本的な原因と解決に必要なものは何か

環境問題は、後に被害が拡大してしまう前に、早急な対策を取ることが求められます。しかし、実際にはそううまくはいきません。

上の図のように、地球環境問題は複雑に絡み合っています。それぞれがつながりあっており、1つの問題に対して対策を練るといった対症療法的な対策だけでは環境問題の解決には至らないだろうと思います。さらに、(地球)環境問題といった目に見えない問題は実感することができず、緊張感が高まりにくいことも一つの障害になっているでしょう。それに加え、現代の社会構造は複雑であり、実際に行動を起こすには法決定や議定書の発効など、様々な過程を経なければなりません。早急な対策が求められても実行に移すには時間がかかり、状況の悪化を食い止められなくなることも考えられるでしょう

環境問題の原因は人間の経済活動、私達の生活規模の拡大にあります。経済活動が拡大し、物資が行き渡るようになり、貧困や飢餓が以前と比べ、無くなりました。貧困・飢餓が減ったことにより、人口が増加しました。経済活動の拡大と人口の増加は相互に影響し合います。その活動の拡大が自然の摂理・働きを乱してしまい、自然災害の増加や食料の不作を起こすであろうと言われ、一部では実際に被害が起き始めています。(石 弘之著 「地球環境報告」参照)。(地球)環境問題は人類の存続に関わる問題であり、解決するには原因とされる人間の活動自体をより環境保全的なものに転換しなければいけないように思います。

環境問題の原因となる人間活動の拡大は、元をたどれば人間の欲や自我の拡大によるものです。便利さ、豊かさを求めすぎた結果であるともいえます。地球環境問題はもとより、その他の環境問題も、この欲や自我の拡大といった人間の意識を変えることで根本的な解決が望めるのではないかと、というのが私の考える環境問題の本質です。

人々のライフスタイル、人間の生き方を変えるということは困難なことです。しかし、環境へ対する人々の意識が変わらなければ根本的な解決は望めないであろうと思います。

技術の革新・向上によって現在の生活様式を変えずに、汚染物質を減らしたり、生活がより便利になることはもちろん重要であり、いいことである。しかしそれはあくまで人々が豊かになるための手段であると考えます。本当の豊かさというのは大量消費にあるのだろうか。物を捨てなければ実現できないことなのか。この社会形態を変えていくには、モノをもたないと思い、モノを活かす感謝の気持ちが必要なのではないかと思えます。活動規模を抑えるためにはこういった内面的なものを変えていく必要があると思えます。この心を持つことでゴミ問題をはじめ、地球環境問題も縮小・解決の方向に向かっていくのではないのでしょうか。人々の意識の改革は環境問題の解決に直接つながると私は思います。

意識はいろいろなところから影響を受け、入り込んでいます。それは家庭であったり学校教育であったり様々ですが、宗教というものがこれらの意識に大きく関わっているのではないかと考えました。実際にキリスト教は自然破壊の原因となった考え方であるとか、東洋思想のアニミズムといった考え方は自然保護的であるといったことは盛んに議論されています。宗教は人々の意識に最も大きく関わってくるのでは、と思いました。

3.今後の研究の方向

私は天理教という宗教を信仰しています。私は休日によく天理教の教会に行くのですが、教会の先生

に自分が環境問題のことを勉強していると話すと、天理教の考え方は環境にやさしいよといったことをよく言われます。具体的にどういったところが良いのだろうか、常に考えていました。もしかしたら自分の信仰する宗教の考え方・生き方が参考になるのではないかと考えました。今後は天理教を含め、宗教が人々の意識や価値観にどう影響し、社会・環境とどのように関わってきたか。また、宗教は地球環境問題解決に向けてどのような可能性を持っているかを研究していきたいと思います。

補足

昨年度の個人研究は、正直言って研究といえるようなものではありません。1年間の反省をし、今年度の個人研究では、自分の考えが相手に伝わるように、研究に客観性を持たせていこうと考えています。